

<編集後記>

会誌名改称と今後の方向性

本誌を手にとって、会誌名の改称に驚かれた会員も少なからずおられたかもしれません。しかしおおかたの会員が「本会らしいネーミング」と「時流をとらえた改称」に賛同いただきながら、本誌を手にかけていただいていることと思います。表紙デザインも1993年6月発刊第15巻1号（通算25号）から19年ぶりにリニューアルしました。ちなみに当時は、まだ関西自然保護機構「会報」となっていますが、初夏らしいオオヨシキリの表紙に新しい会誌のスタートを感じます。

さて会誌名改称については、現運営委員会体制以前にも議論した経緯があります。そのときには総会にいたる前に現状維持が決まり、改称は実現しませんでした。このたびの改称にあたっては、約1年にわたって編集委員会で意見交換・原案作成後、運営委員会で議論を重ねました。また当然のことながら、この間、会員のみなさまに意見を募り、2012年3月の総会で承認いただきました。これにともない、投稿規定が改訂されましたので、ご確認ください。

時代とともに、関西自然保護機構が設立当時果たした社会的役割の変容はあるものの、自然環境の保護と保全に関する現代的課題に対して、さまざまな社会的要請に応えるアドバイザー・ボディとしての役割は、今後ますます必要であるという本会の意義を再確認した上で、「地域」の自然を研究し、生物多様性を軸とする「保全」に視点をもち、なおかつ若手研究者にとっても魅力的なネーミングを模索しました。過去・現在・未来という時間軸のなかで自然をとらえるという意味から「自然史」とし、オープンなジャーナルとしての性格強化をめざして改称いたしました。

今後、「地域自然史と保全」が魅力的なジャーナルであり続けるのはもちろんのこと、研究者、実務者、ナチュラリスト、行政そして一般の方々にとって、地域の自然環境に関する知見を結集した論文発表と情報交流の場となることを願ってやみません。

さて、本号は滋賀県朽木のトチノキ巨木大量伐採に端を発した、自然と社会と地域が抱える重大課題に関して、「琵琶湖水源域朽木トチノキ林の危機と保全」と題した特集を組みました。朽木のトチノキ林保全にとりくんでおられる研究者、行政、ナチュラリストの方々から記事を寄せていただくとともに、日本の水辺林研究をリードされている新潟大学崎尾均氏に特別寄稿いただきました。

原著論文、短報および報告記事として、KONC助成研究成果をはじめ、水域・陸域両方の興味深い研究論文を掲載しています。投稿・寄稿いただきました著者のみなさまに感謝致します。会員のみなさまには次号に向けて本誌への記事をお待ちしています。

（前迫ゆり）

関西自然保護機構

名誉会員

千地 万造 宮本 憲一

会長

石井 実

副会長

山西 良平

運営委員

上原 一彦	奥平 敬元	角野 康郎	神崎 護	熊井 久雄
佐久間大輔	布谷 知夫	野寄 玲児	平井 規央	前迫 ゆり
村上 興正	和田 恵次	和田 岳		

編集委員会 (*委員長, **副委員長)

奥平 敬元	角野 康郎	神崎 護**	幸田 正典	高柳 敦
立澤 史郎	布谷 知夫	原田 泰志	平井 規央	藤井 伸二
前迫 ゆり*	山倉 拓夫	和田 岳		

会計監事

原田 泰志 森本 幸裕

事務局長

山西 良平

事務局員

大久保その子

関西自然保護機構への入会希望, その他のお問い合わせは, 事務局までお願いいたします。

お 願 い

1. 本機構では会誌の他に「KONCニュース」を年若干回発行しています。
各地の自然保護に関するニュースを2000字以内でお寄せ下さい。
2. 本機構では, 次のものについて原則として発表先を問わず業績番号をつけることにしましたのでご協力下さい。
 - 1) 本機構が事業として行った調査研究成果
 - 2) 本機構が助成金を交付した調査研究成果
 - 3) 会誌その他, KONC出版物に掲載した調査研究論文
 - 4) 上記研究から派生して得られた結果, あるいは会員が業績番号を付した方がよいと判断されたもの本機構の出版物以外に投稿された場合の業績番号を入れる位置は, 各出版物の規定に従ってください。ただし, 和・欧文とも下記の表現をお使い下さい。
関西自然保護機構業績 第 号
Contribution from Kansai Organization for Nature Conservation,
no. _____
番号はその都度, 編集委員会にお問い合わせ下さい。
3. 投稿規程は, 会誌の奇数号に掲載します。